



ASKUL

サステナビリティ
ハンドブック 2019

未 来 へ の 歩 き 方

09

環境に配慮した
原材料の調達

11

脱プラスチックへの
取り組み

13

被災地支援につながる
オリジナルデザイン商品

15

働く人を応援する
仕組みづくり



企業理念

お客様のために進化する

Innovate for Customers

私たちが目指しているのは、

お客様と社会にとって必要なものを、

もっとも望ましいかたちでご提供すること。

そのために、アスクルはお客様の声を聞きながら

商品、サービスの内容、仕組み、

そして私たち自身を常に変化・進化させています。

そのことが、お客様のために

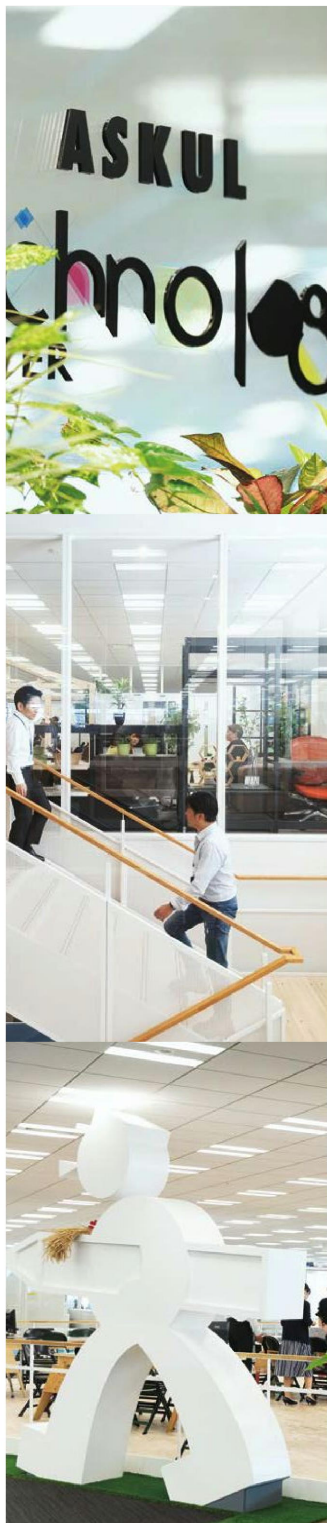
新たな価値を創造することにつながっていく。

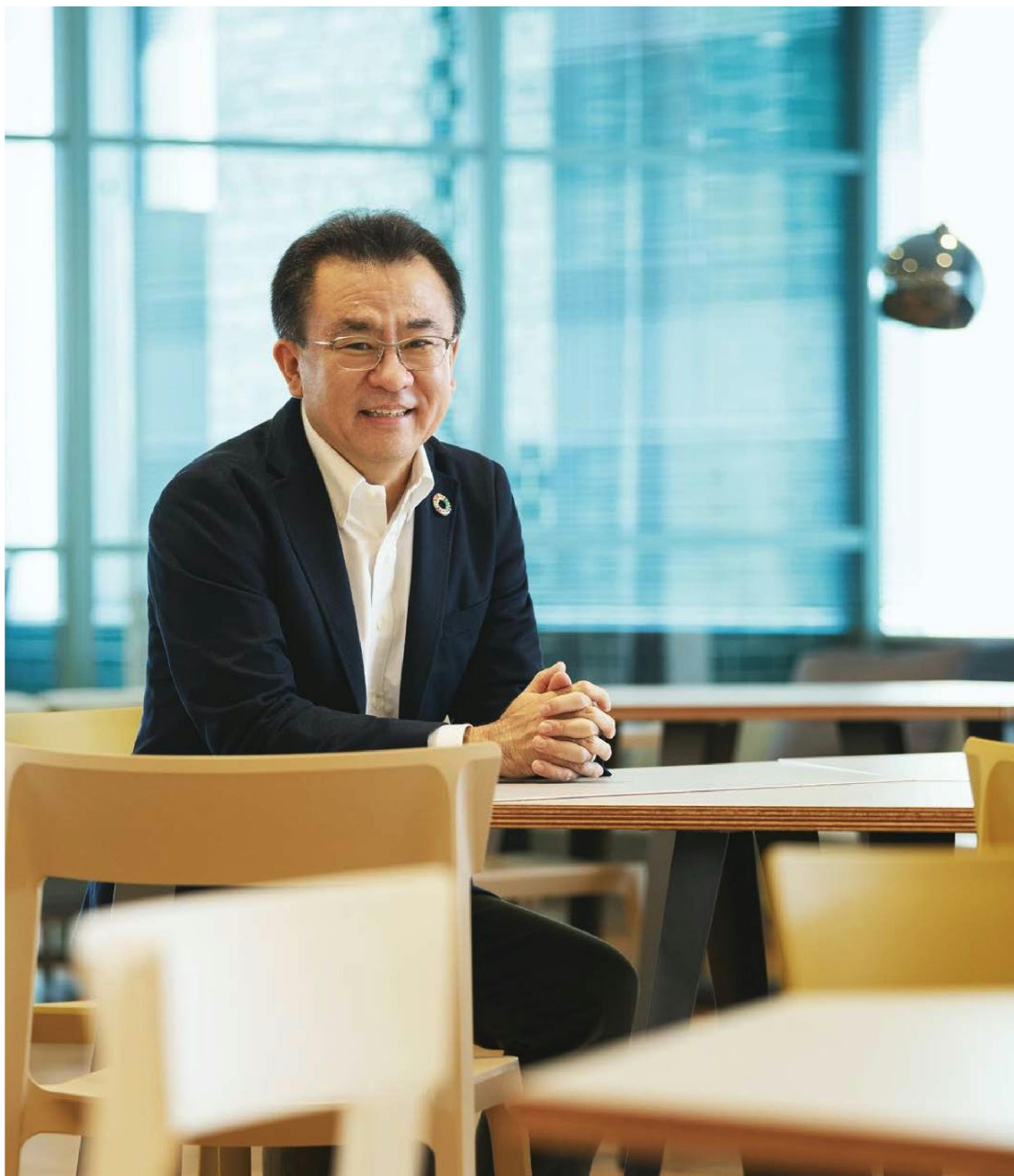
私たちはそのように考えます。

アスクルはいつも、お客様のために進化することを、

すべての原点にしています。

私たちがアスクルとしての一步を踏み出したのは、1993年でした。その創業当時からずっと大切にしてきた考え方であり、アスクルのDNAとも言えるのが、「お客様のために進化する」という企業理念です。私たちは「どうすればお客様に喜んでいただけか、そのために自分たちはどのようにあるべきか」を常に模索しながら、歩んできました。そして、これから先、世の中が大きく変わりゆく中で、未来に向けて私たちはどのように歩いていくのか。アスクルの「未来への歩き方」を皆様にお伝えするために、この冊子を作成しました。





明日へ 未来へ お客様とともに 歩き続けていく

代表取締役社長CEO
吉岡 晃

アスクルが大切にしてきたこと

私たちは、お客様の声に素直に耳を傾け、それにお応えすることで、事業を発展させてきました。では、お客様とは誰であるのか。文具・家具メーカーであるプラス株式会社の一事業部として、1993年に通販サービスの提供を開始したアスクルは、お客様を「商品を利用するエンドユーザー」とでであると考えました。そして誕生したのが、アスクルモデルと呼ばれる全く新しい流通システムです。

この流通システムには、社名の由来ともなっている「注文した商品が翌日(明日)には届く(来る)」ということ以外にも、当時としては画期的な特徴がありました。例えば、自社製品(プラス製品)以外も取り扱ったことや、無駄を省いた合理的な流通システムを通じて、よりお求めになりやすい価格で販売したことなどです。当初は社内や業界から反発の声もあったと聞いています。

しかし、それを乗り越えてきた。なぜなら、エンドユーザーであるお客様が求めていたのは、「欲しい商品を、リーズナブルな価格で購入する」ことであったからです。アスクルモデルのすべては、お客様の声にお応えするために構築されました。

その後も、「こんな商品を取り扱って欲しい」というお客様のご要望を受けて、文房具から家具、さらには、工具や衛生・介護用品、医薬品・医療機器など、オフィス用品以外へと取扱商品を増やしていきました。また、今から約20年前に、インターネットでの注文や、東京23区を対象とした当日配送をスタートさせるなど、お客様の声をきっかけとして、時代に先駆けたサービスを生み出してきました。

お客様のために進化する。この企業理念、DNAが、今日の私たちを形づくってきたのです。

目指すのは「三方よし」の ビジネスモデル

しかし、お客様の声を的確に把握することは容易ではありません。事業環境が急速に変化し、お客様のご要望が多様化、複雑化する今の時代にあっては尚更です。

それを読み解くためには、不可逆的な構造変化を捉える必要があると思っています。ひとつが、お客様はより便利なものを求めていくということ。この観点で言えば、デジタル化の波は避けることはできないでしょう。また、国内における労働力不足、地球規模では気候変動の影響などが挙げられます。

そのような不可逆的な構造変化の中で、私たちもお客様も、ビジネスが社会に与える影響を一層考慮する必要が出てきています。では、私たちはどのように未来へと歩いていくべきなのか。キーワードは、日本古来の言葉である「三方よし」であると私は考えています。

アスクル、お客様、さらには調達先などのビジネスパートナーを含めて、アスクルの事業に関わるすべてのステークホルダー



がハッピーになり、その結果、社会課題が解決し、社会全体がハッピーになれる「売り手よし、買い手よし、世間よし」のビジネスモデル。それがこれからアスクルが目指すべきゴールであり、世界共通の目標であるSDGs*が掲げる「誰一人取り残さない」という理念にも通じるものであると思っています。

事業活動を通じて 社会課題の解決を目指す

具体的な取り組みについて、少しご紹介します。SDGsの文脈の中で、人や社会、地球環境に配慮した倫理的に正しい消費として「エシカル消費」という言葉をよく耳にするようになりましたが、アスクルでは商品開発という軸で、同様の考え方を取り入れています。例えば、「1 box for 2 trees」プロジェクトでは、コピー用紙の原材料である木をサステナブルに確保する取り組みを2010年から進めてきました。このような社会課題の解決に貢献する商品開発に注力していくことに、これからも変わりはありません。

また、さらに重要になってくるのが、原材料メーカーやサプライヤー、そしてお客様をも巻き込んだ社会課題の解決だと思っています。例えば、海洋プラスチック問題が深刻化する中、アスクルではサプライヤーの皆様と一緒に「脱プラスチック」に向けた取り組みを始めています。さらに、私たちのビジネスを通じて業種業態を超えてつながった企業同士で、脱プラスチックに貢献する素材の情報を共有する動きも具体的に始まっています。アスクルというプラットフォームを基盤に、様々なアプローチで、様々な形で社会課題の解決に貢献していく。私たちは、そういった流れをもっとつづけていきたいと考えています。

* Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)：2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標

「1 box for 2 trees」プロジェクト
➡ 詳しくは、P.9

「脱プラスチック」に向けた取り組み
➡ 詳しくは、P.11

このほか、2011年に発生した東日本大震災の被災地の子どもたちを応援するために立ち上げた「ASKUL Kodomo Art Project」のように、事業活動を通じた被災地への支援も、昨今、災害に頻繁に見舞われる日本で事業を展開する企業の責務として、継続的に取り組んでいきます。

ASKUL Kodomo Art Project

➡ 詳しくは、P.13

お客様のために進化し続けていく

「三方よし」のビジネスモデルを目指し、私たちはお客様のために進化し続けなければなりません。なぜなら、持続可能な社会の実現は、お客様の未来にとっても欠かすことができないものだからです。

そのためにまず大切なことは、アスクルで働く人たちが心身共に健康な状態であることだと考えています。アスクルでは、「働く人を応援する仕組みづくり」を積極的に進めています。現場の最前線で働く物流センターの従業員を対象に、食事を無料で提供する試みを開始したのも、そのひとつです。アスクルで働くすべての人たちが、お客様の声に耳を傾け、お客様のために進化することに集中できる環境をいかにつくっていくのか。常に模索し、考え、行動することが、私の社長としての重要な役割であると認識しています。

アスクルの未来は、これからもお客様とともにあります。明日へ未来へ、私たちはお客様とともに歩き続けていきます。

働く人を応援する仕組みづくり

➡ 詳しくは、P.15

アスクルのサステナビリティ重点課題

取締役・執行役員等へのヒアリングおよびCSR委員会での検討等を通じて、「社会課題としての規模の大きさ」「事業との関連性」を踏まえ、以下の4つのテーマをサステナビリティ重点課題として設定し、各種取り組みを行っています。これらの取り組みは、SDGsの実現にもつながっています。



地球環境問題への対応

➡ P.09



持続可能な商品・サービスの提供

➡ P.11



被災地への支援

➡ P.13



働く人への支援

➡ P.15





地球環境問題
への対応

環境に配慮した 原材料の調達

インドネシアに広がる「木の畑」。アスクルがお届けするオリジナルコピー用紙は、ここから生まれます。お客様が毎日使うコピー用紙を、これからも変わらずお届けするために、私たちはパートナー企業と共に「木の畑」で「1 box for 2 trees」プロジェクトに取り組んでいます。

畑から収穫される木で コピー用紙を

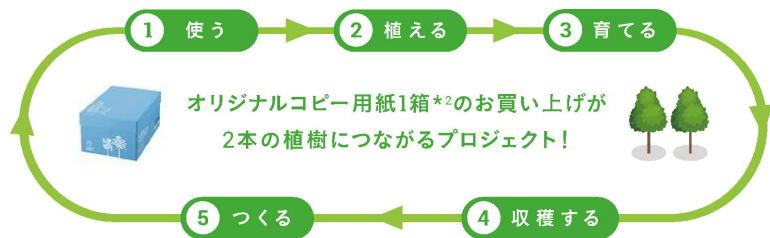
アスクルのオリジナルコピー用紙の販売数量は国内で第1位*1。その原材料である木は、製造委託先であるアジア・パルプ・アンド・ペーパー社がインドネシアで運営する「木の畑」で収穫されます。コピー用紙1箱分のA4用紙(5,000枚)をつくるのに必要なユーカリの木は1本。アスクルでは、コピー用紙1箱のお買い上げに対し、原材料の2倍となる2本の木を植え、育てられる過程を確認していく「1 box for 2 trees」プロジェクトを2010年にスタートしました。以来、毎年アスクルの社員が現地に直接足を運び、インドネシアのスタッフとともに、「木の畑」に植えられ、育てられる木々たちを見守ってきました。

いつまでも安心して お使いいただくために

「1 box for 2 trees」プロジェクトがスタートして5年後の2015年。初年度に植えたユーカリの木がコピー用紙の原材料として適した大きさに育ち、最初の収穫の時を迎えました。それ以降、アスクルのオリジナルコピー用紙の原材料のほぼすべてが「木の畑」で賅われています。自然林からの伐採は、森林資源の枯渇を招くだけでなく、そこに生息する動植物たちの住まいを奪い、生態系に大きな影響を及ぼします。一方で、「木の畑」からの収穫は、植林された木のみから行われます。

これまでに植えられたユーカリの木は約1億4,900万本、面積にして10万4,200ha。お客様

「1 box for 2 trees」プロジェクトの概要



*2 A4 5,000枚を1箱と換算しました。

2030年CO₂ゼロ チャレンジ

アスクルは、2016年に「2030年CO₂ゼロチャレンジ」を宣言しました。2030年までに事業所・物流センターからのCO₂排出量をゼロに、また物流センターからお客様にお届けする車両(子会社所有またはリース)からのCO₂排出量をゼロにする取り組みを進めており、2017年には、国際的イニシアチブである「RE100 (Renewable Energy 100%)」と「EV100 (Electric Vehicle 100%)」に加盟しています。

RE100

事業運営に必要な電力を再生可能エネルギー100%で調達することを目指す国際的なイニシアチブです。アスクルでは、2030年までにグループ全体で使用する電力を100%再生可能エネルギーの利用で賄うことを目標にしています。



の環境意識が年々高まる中、毎日使うコピー用紙をいつまでも安心してお使いいただくために、「木の畑」では「植える」「育てる」「収穫する」という持続的なサイクルを繰り返していきます。

*1 2018年5月～2019年4月の販売数量(出所:アスクル調べ)

植林木数

約1億4,900万本

植林面積

約10万4,200ha



現地との対話を大切にしています



アスクル株式会社
CSR・環境
東 俊一郎

「木の畑」の運営には、現地の皆様の協力が欠かせません。私は、2010年からインドネシアのスマトラ島に通い、現地の皆様との対話を継続しています。未だに言葉の壁に苦労していますが、やはり大切なのは「木の畑」への想いを伝えること。これからも現地の皆様と一緒に課題を共有し、解決に取り組み、「木の畑」の発展に貢献していきます。

EV100

電気自動車(EV)の使用や環境整備促進を目指す国際的なイニシアチブです。アスクルでは、物流センターの運営と配送を担うASKUL LOGISTが使用する車両を、2030年までにすべてEVに切り替えることを目標にしています。





持続可能な
商品・サービスの提供

脱プラスチックへの取り組み

海に流入する大量のプラスチックごみ。海洋生物の生態系に与える影響が話題となり、廃棄物処理の側面からも世界各国が脱プラスチックに向けて大きく動き出す中、アスクルでも様々な形で取り組みを進めています。

プラスチックごみに対して私たちにできること

私たちの生活のあらゆる場面で利用されているプラスチック。軽量で耐久性に優れ、様々な形状に加工することが容易であり、かつ、安価で生産できるという特長があります。しかし、近年、適切に処理されないまま海に流れ出たプラスチックごみや廃棄物としてのプラスチックごみが大きな社会問題となっています。

海に流れ込んだプラスチックごみは、長い時間生態系を含む海洋環境に影響を及ぼすと言われており、また、2050年には、プラスチックごみは全地球の魚の量を超えるとも言われています。私たちはプラスチックごみを減らすため、ポイ捨て

てしないことはもちろんですが、使い捨てプラスチック商品を減らす、プラスチックに替わる素材を使う、ごみは分別して回収する、また、回収後はリサイクルして新しい商品に生まれ変わらせる「サーキュラーエコノミー」にも取り組んでいく必要があると考えています。

脱プラスチックに向けた商品の開発

このような「海洋プラスチック問題」に対し、いま世界各国がプラスチックごみの削減やプラスチック代替素材の使用に向けて大きく動き出しています。アスクルでも海洋プラスチック問題に対する世界の動きに応え、使い捨てプラスチック商品に替わる品揃えを増やし、できることから

脱プラスチックに向けた商品



Action 1 紙製品や木製品の品揃えを増やす
使い捨てプラスチック商品に替わる紙ストロー、紙バッグです。



Action 2 プラスチックの廃棄物を減らす
リサイクルがしやすく、ごみ削減と省資源にもつながるラベルレスのペットボトル飲料です。



Action 3 バイオマス由来の原材料を使用する
サトウキビやトウモロコシといった生物由来の有機性資源を原材料としたごみ袋です。

暮らしになじむ LOHACO展 2019

アスクルが運営する一般消費者向けECサイト「LOHACO」。2019年は「#わたしがLOHACOを選ぶ理由」をコンセプトに、サステナビリティを意識した商品を参加メーカー様と企画・開発しています。

お客様と一緒に環境活動に取り組むため、2019年春・夏号カタログに続き、最新刊の2019年秋・冬号カタログでも「プラスチックから切り替える!」「プラスチックを減らす!」「CO₂排出量を減らそう!」をテーマにお客様と協力しながら、工夫をこらして開発した商品を掲載しています。

一つひとつの商品をお客様にお買い上げいただくことで、ごみ削減や省資源にもつながります。それは、とても小さなことかもしれませんが、その小さな積み重ねが、やがて大きな力となって世の中をより良くすることができる。そんな思いから、アスクルはできることから脱プラスチックへの取り組みを進めていきます。



2019年春・夏号カタログ



2019年秋・冬号カタログ



王子ネピア

nepia krafco

パッケージにプラスチックを使わない大容量ティッシュです。



味の素AGF

ブレンディ®スティック
カフェオレエコスタイル

スティックの包装材料に一部紙を使用し、プラスチックの使用量を削減しています。



石光商事

ダラゴア農園コーヒー
シングルオリジンドリップコーヒー
レインフォレスト・アライアンス認証農園でつくられた製品です。

被災地への
支援

被災地支援につながる オリジナルデザイン商品

被災地の子どもたちが思い思いに描いた絵の数々。それらをモチーフにアスクルが開発したオリジナルデザイン商品の売上の一部が、日本国内で被災した子どもたちのために役立てられています。

アートで被災地の 子どもたちの心を癒す

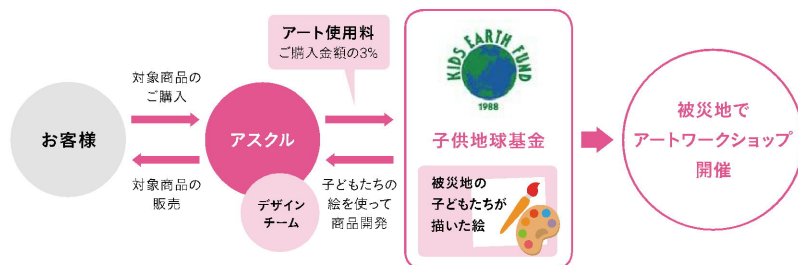
2011年3月に発生した東日本大震災。震災で心に傷を負った子どもたちが、絵を描くことによって自分の心と向き合い、癒され、希望を見出せるように、特定非営利活動法人「子供地球基金(Kids Earth Fund)」は、震災直後から被災地でアートワークショップを開催しています。その活動を支援し、被災した子どもたちを応援するために、アスクルは同じく2011年に「ASKUL Kodomo Art Project」を立ち上げました。「ASKUL Kodomo Art Project」では、アートワークショップで描かれた絵をモチーフ

にアスクルがオリジナルデザイン商品を開発。その売上の3%が「アート使用料」として子供地球基金(Kids Earth Fund)に支払われ、アートワークショップの実施費用や画材購入費などに役立てられます。

広がる支援のつながり

2019年8月で「ASKUL Kodomo Art Project」は、9年目を迎えました。今もなお、東北の被災地ではアートワークショップが開催されています。また、この間、熊本や北海道を襲った大地震をはじめ、日本国内の様々な場所で災害が発生しました。東日本大震災を契機として始まった

支援の仕組み



支援のつながりは、現在では、熊本や北海道等の被災地にも広がっており、これまでの「ASKUL Kodomo Art Project」の合計支援金額は4,000万円を超えています。

私たちがお届けするオリジナルデザイン商品を彩る鮮やかで伸びやかな絵。その向こう側には、子どもたちの笑顔が浮かびます。届いた商品を受け取り、愛らしい絵の数々に思わずこぼれるお客様の笑顔と、被災地の子どもたちの笑顔をつないでいく。これからもアスクルは、「ASKUL Kodomo Art Project」を通じて、このつながりを大切にしていきます。

教育支援も行っています

被災地の教育の充実のために、アスクルは製造メーカーと共同で、対象のオリジナルデザイン商品の売上の1%を、東日本大震災で被害を受けた教育関連施設への設備・教材備品等の寄贈に充てる支援活動を行っています。

災害に備える

アスクルでは、防災・減災に向けた取り組みにも注力しています。

フェーズフリー 認証商品の販売

フェーズフリーとは、一般社団法人フェーズフリー協会が提唱する防災の概念です。日常使用する商品やサービスを、非常時にも役立てることができるという考え方であり、アスクルでは、同協会の審査を経てフェーズフリー認証を受けた商品の販売を行っています。



URL www.askul.co.jp/csr/special/phasefree.html

自治体との 災害時協定の締結

アスクルの物流センターでは、日用品や食糧などの生活必需品を在庫しており、大量の商品を迅速かつ効率的に提供することができる物流機能も有しています。災害発生時においては、アスクル物流センターの地域の自治体と締結した災害時協定に基づき、支援物資の保管や提供により、地域の皆様のライフラインとしての役割を果たすことができます。

「ASKUL Kodomo Art Project」の対象商品





働く人への
支援

働く人を応援する 仕組みづくり

企業は、組織とそこで働く人との共同体。お客様により良い商品・サービスをお届けするための原動力は、いつの時代でも「働く人」です。アスクルでは、働く人を応援する制度や職場環境づくりを積極的に推進しています。

健康管理の推進で働く人の ハビネスを向上

お客様に常にハッピーをお届けしたい。アスクルでは、「お客様のために進化する」という企業理念のもと、その想いを実現するために、従業員の健康管理を推進する「ヘルスケアチーム」を設置しています。健康は、従業員と家族の幸福（ハビネス）に欠かせない最も基本的な要素です。そして、健康の維持と向上、つまり、「働く人のハビネス向上」が、お客様にハッピーを届ける基盤となります。

ヘルスケアチームでは、定期健診受診につながる啓発活動やセミナー、および未病のうちのからきめ細かな保健指導などを行っています。また、女性の就業比率向上に対応し、女性特有の健康課題に対する検査費負担などを実施するとともに、高齢化社会を見据え、時短勤務やテレワークの導入など、病気の治療や介護と仕事との両立を可能にする支援にも取り組んでいます。これらの取り組みが評価され、2019年2月には健康経営の普及促進に向けて経済産業省および日本健康会議*1が認定する「健康経営優良法人 2019(ホワイト500)*2」に認定されました。

働く人が快適に過ごせる「場」を 社内にて設置しています



ウェルネスルーム

鍼灸師(従業員)によるマッサージを受けることができるマッサージ室があります。



カフェ・社員食堂

従業員がいつでも利用できるカフェテリアスペースがあります。また、一部の物流センターでは、栄養バランスに配慮した温かい食事を無料で提供する取り組みを行っています。



*1 少子高齢化が急速に進化する日本において、国民一人ひとりの健康寿命延伸と適正な医療について、民間組織が連携し行政の全面的な支援のもと実効的な活動を行うために組織された活動体

*2 2019年4月から2020年3月までの認定です。

働く人たちが 技を競い、 高め合う

多様な人材・価値観に適応

性別、年齢、国籍、障がい者、LGBTQなど、多様な人材・価値観に適応した意思決定を行い、お客様のためにイノベーションを生み続けることを目的として、アスクルでは「ダイバーシティ経営*3」を重要な経営戦略のひとつに位置付けています。

その第一歩として、2012年に「働く女性支援プロジェクト」が発足しました。2014年には人事本部内に「ダイバーシティ推進室」を設置し、翌年には「ダイバーシティ宣言」を実施。「Diversity for Vitality」をスローガンに、多様性を会社と従業員の相互成長とイノベーションの活力とすることを目指して、多様な人材活用、多様な働き方の促進、多様性享受の組織風土の醸成など、6つのテーマに基づく分科会(タスクフォースチーム)を立ち上げました。

これらの分科会による活動や、2016年にスタートしたダイバーシティ推進プロジェクトを通じて、従業員一人ひとりが自身の能力を発揮できる勤務制度や職場環境づくりを進めています。

*3 多様な人材を活かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することで、イノベーションを生み出し、価値創造につなげている経営(出典:「ダイバーシティ経営戦略3」経済産業省、2016)

多様な働き方を支援する様々な制度があります

- **テレワーク制度**
すべての正社員を対象にしたテレワーク制度を2018年に導入しています。
- **時間単位の有給休暇制**
育児や介護など、短時間の用事を済ませたいときなどに、1時間単位で有給休暇を取得することができます。
- **ASKULサックスホリデー**
英気を養い、さらに活躍することを期待して、勤続5年の節目を迎えるごとに特別休暇を付与しています。

アスクルの物流を担うASKUL LOGISTでは、従業員同士の技能を競い合う分野別の競技会を実施しています。各拠点での競技・選考を勝ち上がってきた全国各地の精鋭たちが一堂に集結。日頃の業務における技術を競います。この活動を通じて、自らの技術・技能を高めるのみならず、お客様に提供するサービスの品質向上につなげています。

3つの競技会を開催



運転技能を競う
「フォークリフト安全運転競技会」



倉庫内作業の精度を競う
「物流競技会」



配送の安全品質を競う
「ドライバーコンテスト」



お客様にも地球にも良いものを

価格以外の差別化が難しいと言われているコピー用紙ですが、梱包の形状や包装など、お客様のちょっとしたご要望にきめ細かに対応することも、アスクルを選んでいただける大切なポイントになっています。お客様の声に真摯に responding していくことが、アスクルらしさです。その姿勢をこれからも大事にしていきます。また、「1 box for 2 trees」プロジェクトのように、環境問題に誠実に取り組んでいることもお客様にご評価いただいています。お客様にも地球にも良いものを、これからもお届けしていきたいですね。

竹久 美月

OA用紙や事務機器・パソコン関連機器を扱う部門に所属。現在は、アスクルの主力商品の一つであるコピー用紙を担当している。



サステナブルなロジスティクスへ

「商品をお届けする瞬間」は、直接お客様に接する唯一のタッチポイントです。その瞬間を担うドライバーの「お届け品質」は、お客様からの評価にダイレクトにつながります。私は、ドライバーの心に余裕があれば、ちょっとした気遣いもできるようになり、自ずと「お届け品質」は高まると考えています。そのために、ドライバーの仕事自体を、魅力的で誰もがやりたくなるような仕事に変えていき、お客様も動く人も満足できるような「サステナブルなロジスティクス(物流)」をつくり上げていく。それが私の大きな目標となっています。

寺田 翔太

配送マネジメント部門に所属。品質管理・コスト管理を担当する傍ら、ドライバー不足などの社会課題の解決につながる新しいスキームの構築を検討している。

未来への誓い

お客様のために、
私たちはどのように進化していくべきなのか。
各自が胸に抱く
「未来への誓い」をご紹介します。

「欠品ゼロ」という期待に応える

お客様が今日注文したものを、明日お届けする。アスクルの基本です。では、商品自体の在庫がなかったら？そんなことが起きないように、私たちの業務があります。商品点数が増え、在庫量を増やしたい一方で、倉庫のキャパシティには限りがある。相矛盾する課題に日々取り組み、「欠品ゼロ」というお客様の期待に応えています。発注・調達業務には、まだまだ改善の余地があります。例えば、極力自動化し、もっと生産的に、合理的にしていくこと。ルールや前例にとらわれず、お客様のためにさらに進化していきます。

中宮 一成

調達部門に所属。在庫切れを起さないように、何十万点もある商品を適切な量そろえておくことがミッション。また、自動発注の仕組みづくりにも携わっている。



アスクルファンを増やす起点に

サービスデスクは、お客様の声が集まる場です。「お客様のために進化する」アスクルにとって、お客様の声は貴重なものです。その声に真摯に耳を傾け、楽しく、前向きに働く仲間存在はとても大切です。そのような人たちは、アスクルの商品やサービスに愛着を感じてくれています。だからこそ、お客様の声を「自分ごと」として捉えることができるのではないのでしょうか。私は、サービスデスクにもっとアスクルファンを増やしたいと思っています。それが、お客様にアスクルファンになっていただく起点になると信じています。

望月 舞

BtoBのお客様に対応するサービスデスク部門に所属。ビジネスパートナーと二人三脚で、最適なサービスデスクをつくりたい仕事を行っている。



お問い合わせ先

本誌および環境に関するお問い合わせは、下記まで。

アスクル株式会社 CSR・環境
電話： 03-4330-5565
FAX： 03-4330-4810
E-mail： ecoaskul@askul.co.jp

商品・サービスに関するお問い合わせは、下記まで。

アスクルお客様サービスデスク
電話： 0120-345-861
受付時間： 月曜日～土曜日 午前8時～午後8時（祝日を除く）

LOHACOお客様サービスデスク
電話： 0120-345-987
受付時間： 午前9時～午後6時

会社概要

創業 1993年3月
本社住所 東京都江東区豊洲3-2-3 豊洲キュービックガーデン
電話番号 03-4330-5001(代表)
URL <https://www.askul.co.jp/kaisya/>
資本金 211億円(2019年5月20日現在)
売上高 3,874億円(連結2019年5月期)

主要な事業内容

eコマース事業(BtoB、BtoC)、ロジスティクス事業

主要事業所/
物流センター

本社	東京都江東区豊洲3-2-3 豊洲キュービックガーデン
豊洲フォレシアオフィス	東京都江東区豊洲3-2-24 豊洲フォレシア
ASKUL Value Center日高	埼玉県日高市大字上鹿山字茗荷沢788-1
DCMセンター	東京都江東区青海4-1-16
新砂センター	東京都江東区新砂2-4-17
仙台DMC	宮城県仙台市宮城野区仙台港北2-5-2
ASKUL Logi PARK横浜	神奈川県横浜市鶴見区生麦2-4-6
名古屋センター	愛知県東海市浅山2-47
ASKUL Value Center 関西	大阪府吹田市岸部南3丁目34-1
大阪DMC	大阪府大阪市此花区北港緑地2丁目1-66
ASKUL Logi PARK福岡	福岡県福岡市東区みなと香椎2-2-1

Webサイトでさらに詳しい情報を発信しています!
<https://www.askul.co.jp/csr/>

